広報
さめがわ

1973
12月号
No.241
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町　佐藤印刷所



日ごろのお働きごくろうさん!!

鮫川村では、毎年勤労感謝の日を中心に文化祭を行ない、その一環として、お母さん、お嫁さんに感謝する会を催しています。

今年も11月22日に、鮫中の体育館に600余名のお母さん、お嫁さんが招待され、たのしい一日をすごされました。この模様はNHK総合テレビで放映され、全国でもめずらしい行事として注目を集めました。

今年で14年目になりますが、いろいろな悪条件にもめげず、福島県一のお働きといわれる村のご婦人がたのために、この行事はこれからも長く続けたいと当局では語つております。

- ⊙ 1日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日
- ⊙ 1月6日　消防出初式
- ⊙ 1月15日　鮫川村成人式
- ⊙ 12月15日～1月14日　年末年始交通事故防止運動
- ⊙ 第3日曜日は『家庭の日』です

今月の人口

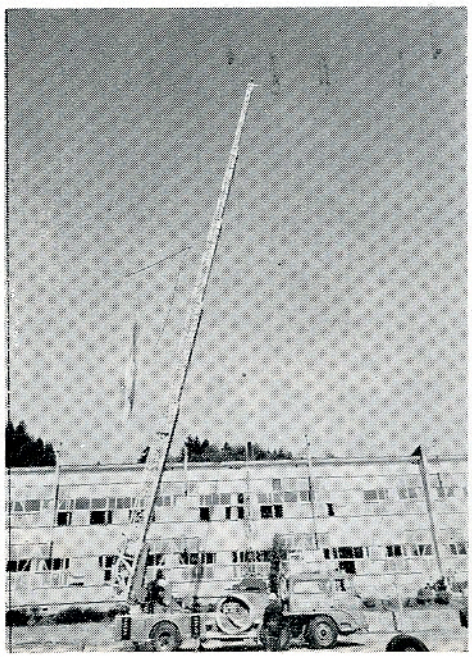
（12月1日 現在）

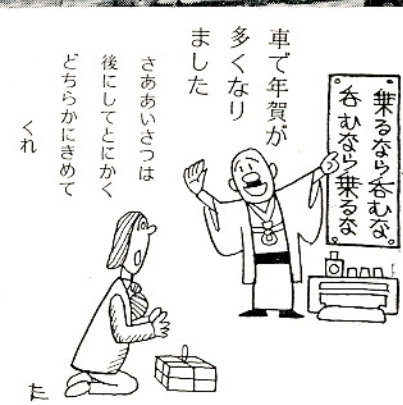
人口	6,242	(＋4)
男	3,128	(＋4)
女	3,114	(　0)
世帯	1,196	(－1)

広域消防本部にハシゴ車設置

白河管内でも高層建築が多くなつたので、白河地方広域圏消防本部では このほど3,200万円で最新式ハシゴ付消防自動車ポンプを購入しました。

11月8日鮫川小学校々庭で操法訓練を披露しましたが、ハシゴは約32mも伸び、12階建の高層ビルの屋上から避難者を容易に救助することができ、近代消防の偉力を一段と加えました。





広域農業開発推進中央段階へ

村長　石田卯子八

（32）

広域農業総合開発基本調査地域として昭和四四年度に農林省の指定をうけたのは、阿武隈八溝山系地域を初め、全国四地域一道六県でしたが、こんど畜産基地建設事業候補地になつている青森、島根、鹿児島、沖縄の四県を新に加え、一道一〇県が、県、市町村、農業団体、地域住民が一体となつて畜産を基軸とする大規模農業開発を推進することになりました

この運動の推進大会が、一一月三〇日に東京のヒルトンホテルで開かれたので、私も福島県阿武隈山系開発促進協議会を代表して出席しました。

先づ午前八時半から大会前の足並を揃える懇談会がもたれましたが、当番の熊本県が司会し、岩手県の千田知事と国会議員懇談会の会長松野頼三さん（熊本・元農相）があいさつし、簡単な朝食をとりながら懇談に入りました。

農林省からは局長連が出席していたので、出席の国会議員や参会者側から注文や激励の意見が出され、和やかな雰囲気のうちに情勢交換が行われました。

大会は定刻一〇時から真珠の間で開かれました。参会者は一道一〇県の知事、部課長、関係市町村長、農業団体長、来賓に衆参両院議員、本省関係は国会開会直前のため大臣の出席はなかつたが、次官局長等が出席され、一〇〇〇名近い数であつたかと思います。

大会委員長に大分県の立木知事を推し、農林大臣に代つて山本政務次官が大臣祝辞を述べられました。

特に感銘を与えたのは、農政の大御所といわれる赤城宗徳（茨城・元農相）さんが中央畜産会長として述べられたあいさつでした。

赤城さんが農林大臣時代はアメリカから農産物を買つてくれとしきりに要請されていたが、国内農業を守る立場から断りつづけてきた。それが現在は世界が食糧危機時代に入り、買いたい食糧飼料も先方から断わられる事態になつた。

今ではアメリカの農産物はソ連の食糧危機を救うためにその方に流れているのではないか食糧こそ石油以上に国際関係を支配するものであるという意見は場を傾聴させたのであります。

この大会で私は大会決議案を朗読する役割を果しましたが、鮫川村から叫びをあげた阿武隈山系開発の声が、遂にここまで来たことに感慨を禁じ得なかつたのであります。

しかし、この事業のこれからのなりゆきについては、中央にもいろいろな意見があつて、困難な前途を思わせるものがあり今後一段の努力を要するものと思います。

おめでた

十一月

新宿　須藤良枝父須藤宏
青生野　岡部琴重〃岡部重勝
中沢　円谷かおり〃円谷鶴男
江竜田　芳賀裕治〃芳賀元治
鍬木田　小川修治〃小川久之
前折戸　霜田昇子〃霜田幸己
青生野土手内隆敏〃土手内隆男
新宿　石井玲子〃石井政光
西野沢　芳賀雄二〃芳賀操
大久保生田目恭英〃生田目芳幸
岩野草　根本博美〃根本一美
大房　蛭田晴美〃蛭田晴夫

おくやみ

十一月　世帯主

広畑　円井リヱ74才円井政利
草牛　斉藤フユ78才斉藤正光
虹ヶ沢　矢吹フヨ87才矢吹満男
大沢　石井シン69才石井政見
浅屋敷　鈴木キイ80才鈴木幸栄
田尻　高久ヤス89才高久勝義
滝ノ下　蛭田京之助73才蛭田セキ
中野町中野西義夫72中野西シゲヨ

◇　◇　◇

年末年始の交通事故に注意しましょう

第26回文化祭スナップ







児童、生徒、保育所幼児の作品も多数展示され、人々の関心を高めました。



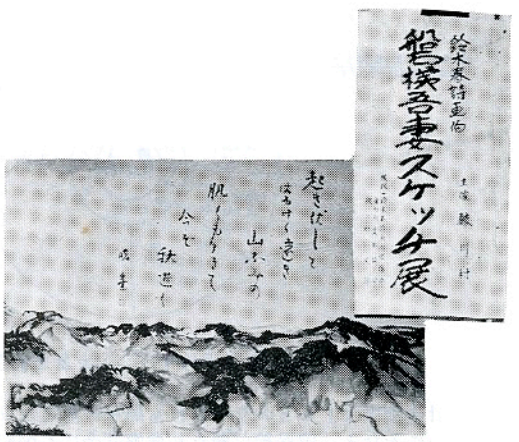
文化祭で人気を呼んだ老人作品展。即売会では飛ぶような売れゆきで、なかには希望者が多くて競売にしたほどです。



お母さん、お嫁さんに感謝する会の席上、優良赤ちゃんの表彰が行なわれました。



お母さん、お嫁さんに感謝する会の模様を収録するNHK取材班の活動ぶり。



郷土の生んだ日本画壇の偉材鈴木春詩画伯のスケッチ展が村公民館に開かれ、文化祭に花をそえました。

昭和４７年度決算の状況

‘‘村の台所はどのようにまかなわれたか,,

一般会計の決算は「別表１」のとおり歳入歳出の差引残額が11,345,645円の黒字となりました。

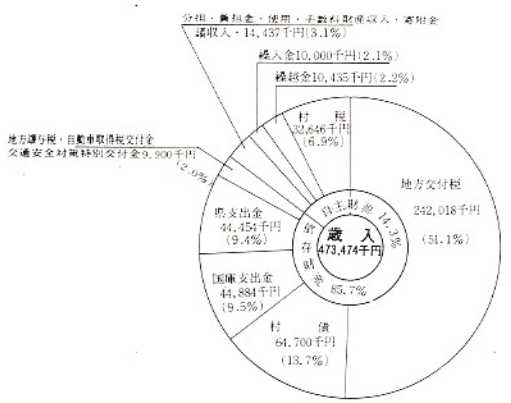
歳入（入つたお金）の内訳は「図1」に示したとおり総額が473,474千円で、そのうち地方交付税が242,018千円、51.1％で半分以上を占め、国や県からの補助金が89,338千円の18.9％であり、村債は64,700千円で13.7％となつております。

みなさんが納める村税は32,646千円の6.9％で「図３」をみますと1人当りの納めたお金が5,243円で前年度の4,679円より564円、12％の増です。これは勤労者の給与所得が伸びたためです。繰越金、繰入金、分担金、手数料等が7.9％で自主財源は全体の14.3％、依存財源の国や県から入るお金が85.7％を占めていますから、本村の財政がいかに国や県に依存していることが大きいかがわかります。

歳出（使われたお金）の性質別内訳は「図２」に示したとおり総額が462,128千円で一番多く使われた普通建設事業費が189,169千円で、村道改良費に52,370千円を投入し、山村振興事業で竹貫浅川線（菅の目・大沢地内）広域圏事業で赤坂石川線（大緑田・落合・田中地内）、石井草青生野線）世々麦地内）、辺地対策事業で石井草青生野線（姿平地内）が整備され、県営事業負担金として国道289号線、県道各路線の改良補装工事費に34,783千円を村で負担し、村民待望の立派な巾広い道路の改良整備が進みました。西野小学校屋内運動場建築費14,400千円渡瀬小学校水泳プール建設費9,819千円と年次計画で各学校の体育施設が充実されて行きます。村民運動場の造成工事費に5,026千円西野生活改善センター建築費8,500千円、農道整備事業4線10,486千円、林道開設事業5線21,140千円となつており、災害で被害をうけた31ヶ所の復旧費に19,189千円で、投資的事業費は全体の46.8％を占め、類似町村が41.0％であるのに比し、いかに本村が建設事業に力を注いでいるかがわかります。

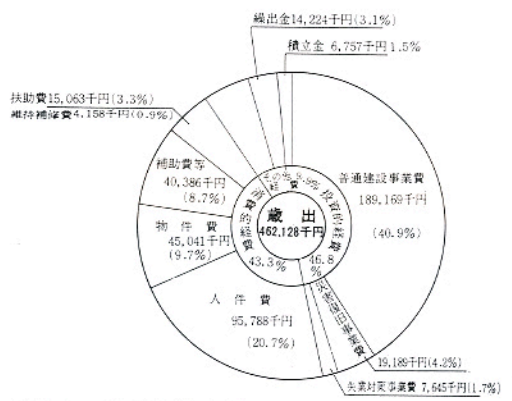
特別職、職員等の給与、報酬などの人件費は95,788千円で20.7％類似町村が25.6％、物件費が45,041千円で9.7％類似町村が13.1％といずれも比率は低くなつております。補助費等では広域市町村圏の常備消防10,531千円、老人保養施設、道路補修等負担金2,625千円と衛生処理組合負担金2,326千円で広域による事業が多くなることによつて負担金が増加しており、扶助費は児童手当、老人医療費の無料化など福祉行政の充実とともに年々多額となり、消費的経費が43.3％、村で建設事業を行なうために借り入れした村債を返済した公債費、特別会計への繰出金及び積立金がその他の経費で9.9％となつております。

『入ってきたお金 図1』



『使われたお金 図2』

性質別内訳



国民健康保険特別会計事業勘定、直診勘定・簡易水道事業

特別会計「別表１」のとおりいずれも黒字決算となり、事業勘定では差引残額のうち、流行病等の発生による医療費の支払いにそなえ、国保給付費支払準備基金に2,644千円を積み立てました。

直診勘定では 診療所の建物が老朽化したので、巡ケ作地内の閑静な場所に近代的な診療所、医師住宅を建築し住民に対する 医療体制を整備しました。

昭和47年度会計別決算状況（別表１）

会計別		歳入	歳出	差引残額
		円	円	円
一般会計		473,473,833	462,128,188	11,345,645
特別会計	国民健康保険事業勘定	75,391,513	69,688,656	5,702,857
	国民健康保険直診勘定	29,160,366	27,897,505	1,262,861
	簡易水道事業	43,839,427	43,806,714	32,713

〔5頁へつづく〕

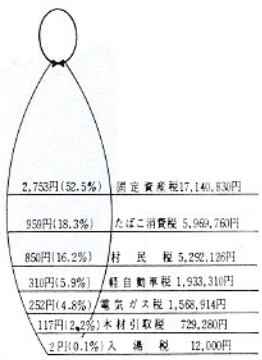
簡易水道事業では、46年度から2ヶ年の継続事業で、当年度は給水施設工事を行ない、48年4月1日から衛生的な飲料水を豊富に供給しております。

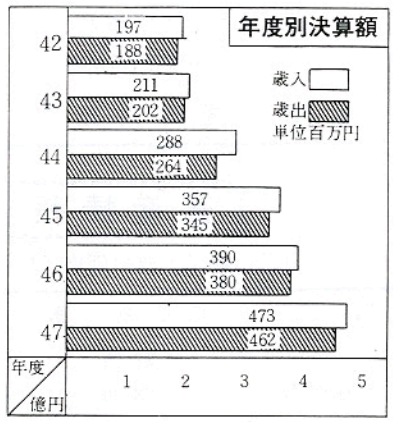
年度別決算額

一般会計

（図3）

私たちの負担は（村税）
1人当り5,243円となります。
その内訳は





祝福される社会人
成人式申し込み受付始まる

鮫川村の成人式は昭和四九年一月一五日（成人の日）に行いますが、本村の成人者は昭和二八年四月二日から二九年四月一日の間に生れた方々です。住民票から調査して名簿を調整しましたが、洩れている方や、転出していても、本村の成人式に出席したい方などは一二月二七日までに、村公民館（電話四二番）に申し込んで下さい

※（　）内は世帯主

○赤坂西野

石井文子（福一）、薄葉昌子（貞夫）、白坂勝徳（勝弥）、須藤一美（勝男）、矢吹真知子（満男）、緑川恵子（勤）、北条伊佐美（久弥）　阿久津ハル（良兄）、高坂元子（琢郎）、藤田春江（詰治）、舟木雅明（ミエ）、舟木民江（芳男）、舟木良一（克臣）、舟木広子（仁）、斉藤静子（定満）植村ミチ子（実）北条政子（平）須藤孝一（忠）

○西山

我妻イエ子（栄吉）、阿久津幸一（義郎）、阿久津富子（政一）、阿久津定美（定太郎）阿久津富子（政一）、根本浦二（清之）、芳賀源二（一）、水野恵美子（吉三郎）、水野一男（啓）関根浩治（忠雄）、大竹卯一（卯吉）、関根岩砂（義美）、関根光子（一）、箭内元子（利信）、関根武男（守蔵）

○赤坂中野

岡崎良一（金三郎）、大池理津子（義剛）、柏正二（正二）、湯座正（辰弥）、緑川幹夫（久之）矢吹成人司（一男）、鈴木節子（公義）、金沢清（次男）、高木多喜男（定典）、高木一一（長雄）高木美枝子（正美）、小松義照（ハルエ）

○赤坂東野

円井千鶴子（重雄）、芳賀義文（文雄）、芳賀三起子（喜一）、蛭田整子（留次）、諸橋すい（亨）、本郷喜美（広美）、根本正美（亀代次）、三瓶稔（正司）、根本セイ子（三郎）、鈴木まさ子（長一）、森静子（静男）、森共子（重寿）、佐川次江（作一）、中川西美好（フミエ）

○富田

円谷文子（政男）、坂本幸子（義利）、矢吹春江（兼光）、岡部哲男（初男）、国島賢（紀元）、鷲野谷フミ子（光次）円谷博（武雄）

○渡瀬

蛭田篤子（久男）、山形康子（叶）、芳賀千賀子（西郎）、芳賀正美（寛一）、芳賀亨（弘）、藤田博（知威）、小松みさ子（富治）、宮崎利子（要）

○青生野

大竹悦子（光寿）、山形時子（久男）、本多守男（啓作）、森田ミヤ子（俊策）、生田目由美子（スミ）、岡部みき子（貞雄）、笹島孝吉（金四郎）、中島文恵（唯男）、加藤幸一（信男）、大森アサイ（勝治）、藤田うめ子（二三）



みんなで祝福

家庭用石油類の安全貯蔵

ことしの冬は、石油事情の悪化にともない、一般家庭でも灯油をドラム缶で購入し、貯蔵しておくのが目立ちます。

石油類は火がつきやすく、火がつけば燃え方が早く、更に消しにくいという特性がありますので火災予防のためその取り扱いには十分注意して下さい。

一般家庭での貯蔵は法律で規制されており、多量に貯蔵することはできません。

◉一般的注意事項（規制事項）

一、貯蔵場所には、品名、数量、を記入した掲示板及び「火気厳禁」の標識を設けること。

二、貯蔵場所の近くでは、みだりに火を使用しないこと。

三、石油類が漏れたり、飛散したりしないようにすること。

四、容器は破損、腐食さけめ等のないものを使用すること。

五、容器を倒したり、落したり、ショックを与えたりしないこと。

（常備消防鮫川出張所）

今月の納税

村県民税　第3期分
国民健康保険税　第5期分

納期限　12月25日です

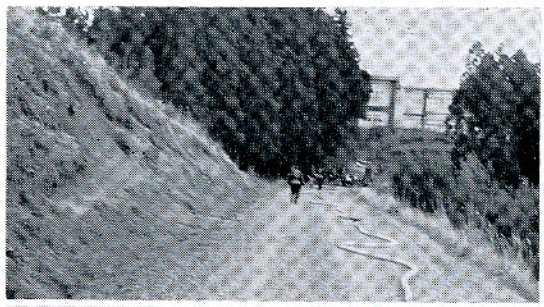
おくれず、わすれず
納期内に納めましょう。

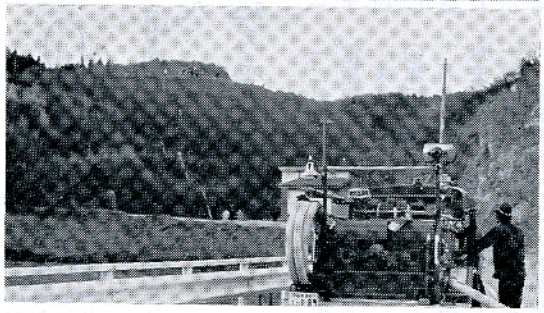
◎完納運動実施中

畜産情報

11月市場子牛取引価格（11月20日）

項目		市場総数	鮫川村	本人取
出場頭数	雌	22頭	10頭	2頭
	雄	23頭	6頭	2頭
	計	5頭	16頭	4頭
平均価格	雌	394,268円	428,360円	
	雄	239,955円	251,800円	
	計	315,397円	362,175円	
最高価格	雌	520,000円	520,000円	
	雄	375,000円	375,000円	
最低価格	雌	250,000円	250,000円	
	雄	201,100円	224,000円	
最高価格牛出品者	雄	鈴木　利男	鈴木　利男	
	雌	生田目雅弘	生田目雅弘	





火災シーズンを前の模擬訓練

鮫中校舎を想定にして

11月28日午前6時30分、鮫川中学校から常備消防署に火災訓練の緊急通報。ただちに常備消防署と第一分団、第五分団の自動車ポンプが出動し、3台のポンプを中継。ホース22本を連結して、通報受信から8分後に放水開始。校舎への延焼を喰い止めた…ところで訓練終了。

朝陽をあびて石田村長の講評があり、好成績をおさめて解散しました。

とうけい

一二月三一日現在で製造業に属する、すべての事業所を調査する工業統計調査が行なわれます。

本村では調査員に大字富田字鍋木田の松本好雄さんが委嘱され、二五日頃から各事業所を訪問しますので、ご協力下さい。

編集後記

カレンダーも残り少なくなりました。師走ともなればたゞ何んとなくあわたゞしさを感じます。

「広報さめがわ」も二四一号となりました。市町村公報としては、生命の長い方です。今年も欠刊なしに発行できたことを感謝しています。

いつも定日に原稿がそろわないのが編集子のなやみでした。

石油危機、物不足、物価高と重大な時期になりました。地球上の資源に限りがあるとすれば物は大切に、そして節約しなければ、永い時代のいずれかに破綻がくるのは必然で、消費生活は文化のバロメーターなどというのはナンセンスでしょう。

資源を大切にする節約の中から安定した文化生活を生み出すことが大事です。

中東戦争による燃料不足ももとより困るが、買い占めによる物不足も更に困つたことで、消費者自身が価格を高騰させる結果になります。お互に自粛しましょう。

今年は天候に恵まれ農作物が豊作だつたのはなによりでした農業も一つの企業であるから、科学技術と近代的な経営感覚で天候に支配されない豊作を迎えたいものです。

悪性のインフルエンザが流行しはじめています。火災予防や交通事故に注意しながら、寒い時期の健康には十分留意して、すがすがしい気分で一九七四年の新年を迎えられるようお祈り致します。

（広報編集部）



火の用心＝出るとき寝るときもう一度!!
火事と救急車は一一九番へ